



2025年度 長野県若槻養護学校グランドデザイン



長野県特別支援学校 重点目標

- 児童生徒の可能性が最大限伸びる学び
- 共生社会の実現に向けた協働の学び
- 1 すべての幼児児童生徒に対し一人ひとりのニーズに応じた教育を提供
- 2 特別支援学校の専門性の向上
- 3 地域や企業の方との協働の学びの充実
- 4 地元の同世代の友との交流及び共同学習の充実
- 5 幼保小中高等学校における特別支援教育の対応力の向上を支援

【本校の使命】

- ◎病弱教育の理解啓発
- ◎地域のセンター機能
(精神疾患、発達障がい、
疾病等の対応)
- ◎社会参加に向けた連携

【学校教育目標】

わたしらしく あゆもう

【「わたしらしく あゆむ」児童生徒の姿】

わたしらしく学ぶ / わたしを知る / わたしらしくかわる

【「わたしらしく あゆむ」を支える私たちのあり方】

私たちの専門性は、「その子らしさの理解と支援」「その子が今日に満足し明日を楽しみにする学校生活(授業)づくりへの姿勢」

- ・(学び) 学び方を選ぶ・「わかる・できる」の繰り返し・実体験の重視
- ・(自己理解) 自分の得意や苦手を知り、自分を受けとめる支援の継続
- ・(かかわり) 共同生活者として、その子なりの人とのかかわりを支援

【学校長の願い】

- ◎心を寄せた児童生徒理解
- ◎個の力を伸ばす学習支援
- ◎安心・安全な環境づくり
- ◎地域への発信と連携
- ◎ここで得たものを
小中学校での実践に

◆魅力のある学習指導

- ・安心感のある授業(一人ひとりに応じた「わかる・できる」学習)
- ・主体性を大切に授業(自ら考え試す、実体験を伴う学習)
- ・ICTを活用した授業

◆生きる力を育む自立活動の充実

- ・TT等による多角的な児童生徒理解
- ・個と集団を視点にした自立活動
- ・日々の授業に生きる個別の指導計画

◆健康指導の充実(自己理解に向け)

- ・健康な身体づくりの理解と実践の推進
- ・心身を健康に保つ生活リズムづくり
- ・自分で行う感染症予防の指導

◆人権を尊重した教育の充実

- ・互いに認め合う学校風土の醸成
(個や集団での自立活動・校内相談)
- ・ハラスメントのない教育環境(性教育等)
- ・外部講師による研修の実施

<2025年度 学校運営の重点>

教師が互いに「わたしらしさ」を発揮し
互いの「次の一歩」を支え合う教職員の
連携

◆進路指導とキャリアサポート

- ・生徒に合った実習先の開拓及び職業教育の推進(デュアル現場実習等)
- ・ライフステージに応じたキャリア教育
(自己決定に向けた体験的な学習)

◆相談機能の充実

- ・チームでの教育相談(校外・校内)
- ・病弱の専門性を活かした教育相談
- ・地域への発信(わかようセミナー等)

◆医療や他機関、居住地校等との連携

- ・今と将来を支える医療、福祉、労働との連携(日頃の情報交換の重視)
- ・市町村教委(転入学の仕組の周知)
- ・副次的学籍制度の活用

◆安心安全な学校づくり(危機管理含)

- ・改築・仮校舎対応・感染症対策
- ・緊急時対応の確立(備蓄、医療的ケア、タイムライン、登下校時対応等)

各部の運営の重点

【小学部】

- 自ら生活を楽しむ力を養う
- ・学ぶ楽しさを感じる児童
- ・自分のことと体に合せて生活する児童
- ・自分や友だちのよさを知りともに学ぶ児童

【中学部】

- わたしらしさを考えられる力を養う
- ・自己実現に向けて、わたしのペースで学ぶ生徒
- ・わたしを知り、自己決定する生徒
- ・いろいろな仲間とつながる生徒

【高等部】

- 社会自立に向けた力を養う
- ・進んで学び働く生徒
- ・社会自立を目指して生活する生徒
- ・自分も仲間も大切にできる心豊かな生徒

【のぞみ部】

- 人やものとかかわり豊かに生活する
- ・見て聞いて触れて感じ、楽しく学習する
- ・自分と他者、ものに気づく
- ・自分らしく表出する

【専門性サポートチーム】

- 支援につながるチーム作り
- 学び合い高め合う学校風土の醸成
- 地域や外部機関への発信・連携
- ・児童生徒理解に基づく支援の共有とチームでの役割分担・迅速な対応(相談時間の設定)
- ・病弱教育の専門性の向上、研修体制の充実(先生方のニーズの把握、外部専門家の活用)
- ・児童生徒理解(病気含)と個に応じた支援(校内研究との連携、カンファレンス等病院との連携)
- ・学校説明会の実施(病弱支援学校の周知)・わかようセミナー・支援会議・ホームページの活用